

2019年度 第1回安全教育研修実施記録

令和元年10月1日（火）、東海ノア協定に基づく2019年度第1回安全教育研修が、日本原子力研究開発機構 原子力人材育成センターを会場に、協定加盟5事業所から5名が参加し、開催された。

研修は、前半に講義を行い、後半に各種放射線測定の実習が行われた。

【講義】

- (1) 放射線と放射性物質
- (2) 放射線と放射性物質の利用
- (3) 放射線の人体影響と放射線の防護

【実習】

- (1) 各種放射線の測定

講義では、先ず、「放射線と放射性物質」と題した、「原子と原子核及び放射線の種類と関連する単位」及び「 α 線、 β 線、 γ 線、中性子線と物質との相互作用」に関する講義が行われた。それに続き、「放射線と放射性物質の利用」と題した、「放射線と放射性物質がエネルギー利用としての原子力発電及び一般利用としての工業・工学、医療・医学、農業・農学の各分野で具体的にどのような利用されているか」の講義が行われた。その後、「放射線の人体影響と放射線の防護」についての講義が行われた。

実習では、「放射線測定器の種類と特性及び取扱い方法に関する説明」に続き、外部被ばくを防護するため、①線源から離れ距離をとる、②線源を遮蔽する、③被ばく時間を短くするといったことについて、線源とNaI(Tl)シンチレーション式サーベイメータを用いた実習を行った。また、GM計数管式サーベイメータを用いて、線源がどこにあるかを特定する実習及び身の回りにある放射能や放射線を確認する実習を行った。

研修後に実施したアンケートでは、「放射線と放射性物質」の講義内容について「適当」との回答が4件（80%）あった一方で、「専門的過ぎる」との回答が1件（20%）あった。

「放射線と放射性物質の利用」及び「放射線の人体影響と放射線の防護」の講義内容については、「適当」との回答がそれぞれ5件（100%）であるとともに、「放射線利用について新たな知見が広がった」及び「事故について詳しく聞きたかった、その他の点は大変理解できた」との回答があり、高評価であった。

「実習内容」については、「適当」との回答が5件（100%）であるとともに、「色々な測定器を使用できてよかった」及び「初めての経験だったが大変為になった」との回答があった。一方、「実習を始める前の口頭での説明が難しく分かりづかった」との回答もあった。

本日の研修については「有効であった」が5件（100%）であった。

本コース全般にわたっての意見、要望等では、「サーベイメータを使用する時間がもう少しあると良い」、「講義の内容をもう少し色々聞きたかった」、「過去の事故の検証や、復興・復旧までの道程、事故の詳細・原因等の研修を行ってほしい」、「講義の時間も適切で大変有意義であった」等の回答があった。



講義及び実習の様子